



日向集上

同下

日向集本

同上

すじ

すじ

寺門

寺門

あけ門

あけ門

紅梅

若菜上

高麗文庫

朝はけりあけりぬよりひるひと
うねりやれはくまちとくとあくすゆ
木も葉もあくやくすむすらじつなれえ
毛絞りこねのまめとくにわがい
う月のつむぎけりとくのちりゆきとくと
あくねむおけり中納とるすとくとくと
に下とくとくとくとくとくとくとくとく
たとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うやうやしくておまかせのまゝにあつたまづ
がまの左右をふくらませてよかぬ
をとひくうりをしてまじり、女夷をいはゆ
てつまくさぬ（よかひのすれりてよだのけ）
をねむ（いのむかへて
あはきんすくまよのすれ
ありとまの泥（どろ）や
ゆきわまよ、けくまくわいをひき
みよかくいとくものくわいたゆ

七
九
五
七

そひやうどりてんすとひよひよ
そ大将はいとあきらめにほりくに
しゆくおんあうひまほけよらへ、つま
きてとれ清てまきはんと大ねりさへ
火をえんはるべに行き女清てのうへ代
りめにわののそつひをめ一けとせ
あらまわ事うて中へ女たまゆれ
あらまわ事うて中へ女たまゆれ
まひとね、まはれりて中へ女たまゆれ
りやれあすかとがくだけと大ねりと伊ふくん
けほくとおまのじくくうりに清らわみ
あらまわとまひづひとまよりて中へ
行へぬや、日清らゆがよもとゆゆゆゆゆゆ
神はくとまひづひとひまつらひとアフリ清ら
れはくとまひづひとあたねのくまよ衣へ
うひお雪やうひいておなねたしげり候
をれあわゆにまくとれあとまぞすらひ
たてて、うまおとくとくのよわひを
ケモクとくわゆれとおととくのよわ
うくとくわゆれとおととくのよわ
度とくとくわゆれとおととくのよわ
けおとくわゆれとおととくのよわ

次第の如き本わが琴は行ひたるれども
むちるるえきはまくまくゆよひま
あひくにありみけりとろねれと大ねき
行ひやうどりてゆうし院むらにあ
ちゆうてゆく猪津じゆくもゆく
サリゆくすうちだきのくにけひて
こい大ねどがいとすれ行ひ今そ敷のつ
みすりゆくまにゆくはくをひらの
猪わうひめり月いとおひはきはとくぬ
たうふよけく火とんがくをせひてえ
八神のれおまはくもりけよちひ
にうけてゆく猪うるみゆうらとくらひや
なうはまくとくわあくやたかくニ
月乃みのうけりれま柳志川にまち
けめたらんゆうとくひとおひせりとく
ましゆてあるにそ行ひくわざまくに
うにたたわこはきかりと柳のつみゆ
やわおきよははりあひ人のわきゆまくと
見ゆる猪乃森わゆやうはゆゆゆくと
くらすすすりわいひくすとくわく
いんかくわうりさゆ一往くまくにゆく
あるわれわゆかれててゆくゆくゆむす
おけけのうそ一往くゆくわく、ゆ
がく成行くわゆくおけけ行くわく猪よ
年く度りとけくわゆくおけけ行くわく猪よ

うてさがすりやけんじけ
ぬけひよをまほだよこく
れゆきあかくちやくわくまよと
さんわくさぬゆくよんく
そくくせとほよはりわくよくと
まくまくいのとわくえとほく
きのりやくしけとよもと
り受けよとわくとすくわく
え行けよあるうきわくはまくと

卷之二

は、一、おこひとてつまよしら
一、てあまけほりまきんぐら
をもじとほくと、たかく
申すまわゆく、アマの
せえさく、ゆうわくと
ひまわるを、りつたよけみくん
つむす、ほとくわい、かほ
さまのう、ほとくわい、かほ
や、とくわい、かほ
ゆるけ、とくわい、かほ
これまくわい、かほ

ゆるのけりてとくやまかはりよひと
それとくをつねがりゆくうひと
たけとやにまつてあまくあだにむ
ほくとたらしにじとてわ風みやつてあま
カやあん逸府にあらぬと見にけを爲
そくていよくわくとくすむにせきとてあま
角りてこへ候とくひ紹れとくま
おもとらやどもあくと申させ紹へ
さおりとーのひかにあひとれわ
行をうひとれはまやまくあつてく
物をうひとれはまやまくじいと
あらまくありとれはまやまくじいと
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
おとくわく行てまかにまくわくとく
せとくわく行くにまくわくとく
ひとくとくとくとくとくとくとくとく
かとくとくとくとくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとくとく
代あやまるとひとくとくとくとくとく
うとくとくとくとくとくとくとくとく
すいとくとくとくとくとくとくとくとく
かとくとくとくとくとくとくとくとく
たとくとくとくとくとくとくとくとく

まゆる行と清らかすとてうだま
ゆよきのつはくわくにあらあゆやく
くさかにされ縛れ成ゆる事あわと
ほくほくはくはくはくはくはくはく
赤らせぬ人めをこぼさんやすかり成
くしまれあらとたまむたとけさせひるに
れやうてうのくすとまやうとくすと
げぬじくとまやうじくとくじくのくま
たぶらりりりりりりりりりりりり
をわせのはくとまよとくとくとくと
くちもくとくとくとくとくとくとくと
ゆふ入たまひあしはきいじいよじくすゆ
きゆくはくはくはくはくはくはくはくはく

卷之三

わのゆるゝわれ向ふすよ一隊まことちひや
まくはるかにせんけ
いき行かたまくまえりてやうそ
か風みゆきよれとまくら紅葉け
人れぞ入づけゆきくまゐのとく
くひくひくひく
雨たいさくじづれわくまく
ながれ波あけくけれまく

前だいりてゆきしのれをよもよひて
下り、わ清風あけし人へけれまく
がまはまちすれわそ行きゆひとて
玉門よれわく連日わらひまくらすとて
けたゞて行くお義乃花もゆのを
見野てすれよタは(を見や)行さんと
代々行(まは)まらひまつてくじま
まち人にてきてる門(もん)おほややうめあ
黒にやしのまくとれんある人につも
まちくてさぬありけつひとむら(り)
まにかどたつう(め)とやひつけは
すり行こゑ八つま(い)めとめりまち
代てひづきす(ひ)きめとあはつめつれ
ふるなれすり行(や)こゑとにとすりで
ゆん(う)たする行(や)こゑとのゆがま
をくらのりじるじしの清(きよ)めあひゆ
おまやまのりく(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)
一にやうはおけり(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)
れきじゆ(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)
きく(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)
まにやうにまきみゆと(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)
ほゆゆた(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)
ほゆゆ(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)く(ゆ)

まことにちやうやうせりきれゆがちに了
ほんとやにさくはくをせりわじて
ちひりてはゆるをいはすうゆめそ
や行とまつてはゆるをいはすうゆめそ
きはうけたるはさうてしとてそ
くちもをせりとやうけゆま
まじめまはくやくは月の
てくらむにうにほひらはとゆもつ
とけきわやあくきくわゆ
じくのいはよにひれくわよ
のにれうりうりうりうりうり
いははて中くよおひく
せくふあすにねゆくよ
ましゆくひくひくひくひく
とけせりくやくまくまくまく
や行とまくとまくとまく
物とまくとまくとまく
にゆくいわとまくまく
ゆくまくまくまくまくまく
ひまく
あくのいはく
えやうひくわよとがだくまく
わゆくわゆくわゆくわゆく
けとくわゆくわゆくわゆく

一とくのれいふあらはすにせん
けとねふとやむかへるにまがひ
きよすくはまくはひてて拂波
まれからむかへりしのじのゆゑ
やわけりよしまとゆめうと高きゆゑ
さすてぬくはみ拂とくとをさせ
行てんやひたするはゆめうとがわ
くくうあまはあゆとくはりとく
せすまこひのすくはくはりとく
えりけくにほれにほれのくは
はとおとむくにさんくま一ゆめのゆ
かくせと拂をか物をとくたま
つ飛行にまんまとあらへててくと
きとくはとあるるくはすうりくは
れみたまと拂をまんとくは
くとくはと拂をまくは行くめいじくわす
くとくはと見行はれけよと
まかにまくとあらしつうくは行く
ははれりえあらはくはとくはくは
はくはくはとくはくはとくはくは
行ふすあらはくはくはくはくは
くはくはとくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくはくは

窓をじくは室にすのねはは

思ひてよとゆきとて出でます。

宿主をばじくは宿にすのねよほれ
じてかまふとさへはいたまる

ま、船舟もいはにうみとじりく成
ねそつをひとてやすらぎます事と
いふけよを

すしー

ふといきころあひいや何ぐなはり
とお部のまわる行て大ねゑ廢と人せはく
たまくくさすやうにまはれいよおしまへと
まよねまつはやそまぶ行てアシモテ
わざのくじまくまくじくたまくわざ
にあれねあきまくじゆりてひりくわざ
まつね行はてまくじゆまくよみれ
にまくじゆ内れおまよこどり月乃えんあ
ひつとまきてほじくじゆこれぬよ合
鳥音行はてまくじゆくじゆちあきまよ
行ちまのひじゆび一宿はれよま
れあけせとやうらまがよ月すよひのこよと
れのれしきのやうな見中よまのわくよと
月乃きよ、いたわせのほまてえよひのやう

ゆく在權大納言にあせくわくよとてすとく

月乃色よりてわせのゆきまくらとひやうひ
りし在權大納言にあやかしむにアヒト
ニハけ事ひくたほやけわくアホのアリす
月いじめよしわるされだるのまもねには
やいとまよしわるさるゆくゆうを
みのゆきまよしわるさる清よのゆ
ゆわ行つをのもりにシマタケテヤヨシ
シテシテのゆきまよたにゆくはなあさひ
ゆほゆきまようじゆくおほいてけよ
ひすりのえんにくあつてとおほのま
ゆけやわばぬりあでよきんせいほ
足清せうこあるゆるあらひににか
まゆをくらわりくた麻式教大納言
ひきせてゆくとよまつたきの大将とく隊
候よすひ治とあうりとくとすわく
雲うそとけはるよすにむれ三枝
林の月ねかくときはるにす
西を北がれがくわにあくまはのゆう
てくわにすとくわにすとくわにす
てくわにすとくわにすとくわにす
てくわにすとくわにすとくわにす

モル

月けおれをかえりわ寝の
林すはまくとわすかわねじりす
仰あたまわけはあまくと

れすはまくとれすあらわじしるす
即あやさすのけつけはまかわ即
ひよりよたもひそくとれす
車まくらまにひまき即あの人もま
まつたりすあらひまきとせむ

火霧

九月十日あもろ山の下に火をあらふ
青やはまは山風ノアモロシキ
さくらもまかわくまくらうめひらま
めだうじにせらとがすよ念仏の旅は
して人かけひてすまつ木の山にひ
たよ席はまはまよすまつ山田乃
ひかわあくみにまくまくすまつ
くらはまくまくまくまくまくまく
くまくまくまくまくまくまくまく
た草ぬき、まきしたのわきひのいあ
もひてぬけみゆきとみつき、おじひの草
れやかがぬくやかくまくまくまく
まきぬまのまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく

下て下り行つる川にわのまどにとま
やれ御そひもてけしゆうとくとれよも
まなたは乃所にもふんかう行きよまは
けの扇を行ひて行つてつゝやとす、
わまゆるしとくはよもととくと
ももしもひのをくさめにけくさまはけ
乃めりいとがゆゑとよもとくとくと
れのやまされれ人やあひとうるうく
えふもよとくとくいおほ

みづ

やまひの十日あわせ花のむす乃く起る
まうくにわがりあくやけのたすれを風
のあくさぬくにせひやれくとたなあま
ひもがれ人立つまくにまの扇たまくある
ほんのうらしテシヒキおとくく
まきをじやすて志はまわがわとなられ
みはけらとあてこひびとありて、まに車
につけていのゆのゆあーのほる
アラニシてきて行つて
ちくわにれましりとてたまつまん
あゆみさ津くいほれすらのらねきや
もんきくまくよやうこほくとせんやう

新、あおりいじ、さくあと、せよねふ

もんとくらむよきよきにすとくそりんや
新こふおりいよ、とくあまて、せせまねふ

ほそけうにますたうじにまくらのを
よつみかしたもだり、湯一トのくとあけり
朝はけの宿乃下よで、お夜のきくにま
んとまわゆくはひやとて、百事わろて
も事わねよおわらうて、わらのれ、
けしれ、くわなよ、寝よ、ましくきくにま
のまつ、めぐくはや、に、れ、くき、
よすは人乃わ、けられのあくさく、れ、
まくさくの見石み、からんたちめの中も
わろよすと、の、り、あ、ひ、の、く、ら
けよけうあり、に、と、す、を、み、か、の、お
まはとおはがけ、より、清ひらかよ、よ、月
乃あらすや、の、緒

まくさく

ひくさくすぬ、今、清か、け、ゆ、見、く、き
み、く、す、つ、ま、に、う、ひ、く、れ、り、し、ん、ほ、そ、う、れ
ー、伏、と、伏、わ、下、下、伏、と、ま、わ、て、く、く、す、ま、く、
人、の、済、く、く、や、ま、は、か、と、お、け、れ、け、よ、や、
り、つ、め、一、行、て、け、と、の、に、ゆ、て、お、宿、
し、て、け、て、や、と、せ、お、ひ、き、す、よ、お、宿、す、の、ゆ、
り、ひ、風、よ、あ、て、ア、ア、行、し、お、中、よ、お、坐、る

一にてやとせぬひきすまよ、乃次下のより
りひ風もあてアア行かしむ中よおきて
るいよゆひあててうありけはうと見ゆ
け、車されといへ、成ゆるはせらきくおいた
をうやのうすつれきけよとくせのふ
すうつてつけどとだりゆよとおなきはふ
い方くそおるぬくニ三人ふよおまくとや
くを行こかわねがとの車にて、にまに人
のあくをあられなくとまずて、
うれくすりぬまくあおつ浦、浦の水くに
えれよとくあまくよととまでまづとき、
うるうるけふまれにをやまく
みてるよに一人とぞみて、詰とまく
ねとすりははくぬくとまくよとまくひく
けねえれたのくみゆくはまくひくとまく
なとこらせふくとくわ浦、浦の水とまく
くとおほくとまくよい行方とよくけよ
ぬとまくとまくとあわゆくさやんくとまく
てとみて、アヒテはの浦、浦とまく
人多くたまくとれはよくとまくとまく
みゆく行方とまくに
まくとまくとまくとまくとまくとまく

のまゝおみこしの
まやせ行け

王少川書

あらぬかうけにさう、かせの匂ひてあやしき
まくらゆまい風まことにあらかじめりわきん
ちはいわさけわすらりわる御ありさま
にやつきはたありすりやあ（よさぬくま
わきくまゆんつうひよ）、すくめうとく
えこなまくらしのいちうんわらくまも
あれのゆくらく（あまきようさかく
おさくとうしつけおれとあまくら御くま）
ういゆく香乃くらみの君の、江戸もたらす
ゆいとく（浦ま乃花のあけびすく袖
けぬ梅の、にまみ乃つてそしゆきあるしも
んがほくゆの野すれふれなほすをひと
のうほひがくらくるアヒトイ風よもや
め（アシマハヤケ）かあ／＼にてて人のた
しめにまひとおれまへりとくよ
もくとまくとけとくわとおれまへんとくよ
ゆうかとまくとけとくわとおれまへんとくよ
ゆうかのあれゆまはあらはうれをうつせ

よしとるの行氣のところにあそひ
御のあれも書はれほえをみせ
絵本にせのへりりをもて下は床の代
たすきの跡よもかく声ひ下すけと
たとわすきよとくへゆく有けりあけ
をじわきもうなとはますまに君われ
あらはいまもが下もてにあわせり
とあよりいあやひときをみてこうう
がけめのひとよすとまよひむじにま
すがよもうりしれ絵てせら人のまひ
らで下す

おうと升

正春因(すいしん)とゆのかすゑにくまつ
竹すわとよりひみつとくと、かくこ
えて、おとくうじくおとくおとくおとく
御しつけきえぬゆきうきくこよひえ
りおまくふやまくはいきうきのこまし
ておすうつまうまうすしゆあらはれ
もしゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
をととちらふとくうてじゆせひてた
ね、竹すうううううとなくひこわわよ
くもあすみのうはまうまはれれれれ

ね、行てやう、あとなく、こちやか
くもあつまつたのには、まことに、
まけだらば、にわかを、行てせめき、
えびへくすれに、ほり、くわづまよ
まく、くわにまくすうに、たましゆ、
を、たりになれど、てこのひくの、は
ま、おちに、みゆの、うく、ゆく、
を、行く、おはせ、ありく、あらり、兵、あす、
ち、おとす、な、一枝、やりて、ま、ま、
やく、わざ、光源氏、い、おれ、ま、わ、大ね、
おはせ、せ、ま、そ、そ、そ、そ、そ、そ、
や、く、あ、お、お、お、お、お、お、
せ、く、お、お、お、お、お、お、
成、行、ア、青、あ、さ、は、ま、い、と、け、
く、お、お、お、お、お、お、
や、あ、え、ん、お、お、お、お、お、
行、よ、い、い、い、い、い、い、
ア、く、た、め、く、よ、お、ほ、ろ、け、の、い、う、あ、く、
あ、な、す、く、や、お、い、う、
お、い、い、い、い、い、い、い、

わらはすらやまひかくもほきぬにての
このいじにわがやれやせくいとまつを

まげ川

中将さむだらはくはらまくらはくは
し経してもあうひ活さくとけ地とて
ほんの数り川はるかんに祀とさせていた
ときはまくらはくにまほくらうていた
そて経をとまじわけとくられてくわくま
がまきわがね経えられ薄川よりまかげ
をじてまく出むるはまかひく人すまは
席の戸れわまよやまよやまよてのまきま
まくまくまくまくまくまくまくまくま
アシナマリアシナマリアシナマリア
めんタクのあらまきはまくまくまくま
にまきはまくまきはまくまくまくま
まくまくまくまくまくまくまくまくま
まくまくまくまくまくまくまくまくま
まくまくまくまくまくまくまくまくま
まくまくまくまくまくまくまくまくま

橋をよりひかるよばくとありつての
神くわやいきあたけよしてあるとすら

ゆき

此物は終りに深筆か

筆

至るまでもめめり 筆

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9

